会山行報告書

通算山行NO	No．２８９	報告者	加藤秀子
年　月　日	２００４年１２月２８日（火）～３１日（金）	２万５千図＝甲斐駒ガ岳	
山　名	全体の計画＝南ア・甲斐駒ガ岳（２９９８m）・坊主尾根～甲斐駒～日向八丁尾根 今回の報告・１２月２９日＝篠沢橋～２１５０m峰（Ｃ１泊）	長坂上条	

体力度＝４・やや厳しい　技術度＝４・やや難しい　危険度＝４・岩場が部分的にあり　自然度＝６・良好　展望度＝６・甲斐駒が素晴らしい　藪濃度＝５・結構ある　道標＝まったく無い　三角点＝１７１５mツヅミにあるが、現認できず

未知の超藪尾根に挑む

コースとタイム	２８日＝富士１４：００～篠沢橋（泊） ２９日＝起床４：００～篠沢橋発５：４５～尾根６：１５～ツヅミ９：３０～宮の頭１２：４０～Ｃ１２１５０m峰１５：００（泊）
標高差	上り・篠沢橋・約８５０m～２１５０m峰＝約１３００m 下り・各ピークで少しあり
参加者 ひと言	ＣＬ・後藤隆徳（５７）＝歩きでは久しぶりの本格的冬山。未知の尾根は怖くもあるが、探究心で一杯だ。 加藤秀子（５５）＝過ぎてみれば苦しさも楽しい思い出に変わる。今年は無雪期にもう一度登ってみたい。

29日（2日目）＝坊主尾根って聞いて一発で分かる山屋は少ない。かくいう私も実は最近まで知らなかった。パソコンのネット・サーフィンで偶然知ったのである。しかも、甲斐駒東面のバリエーションに精通していたのは、意外と身近な方で沼津の「K山の会」のT氏だった。

今年の年末は雪も少なく山スキーは期待薄だった。それに連続休暇の年末年始くらい、普段取り組めない「未知の大きな山」にチャレンジしたい。坊主尾根は、そんな条件にピッタリの所だった。（ここまで後藤記）

「……今一つ甲州方面より登る新しき道あり、其の順路は駒城村を発して大武川の渓谷に入り、左大武川本流、右篠沢（黒戸山と宮の頭の間にある大武川の一大支流、表山七丈滝の下流は此沢となるものならん）の間なる山背を登り、ツヅミと称する一峰（三角点ありという）を経，益々登りて宮の頭に達す。

此峰は日野春方面より駒ケ岳を望む時、頂上の左下にありて、黒戸山（右下にあり）

ふんわり 柔らかく落ちてくる雪に感動した。年末に相応しいごっつい山行に、重量への不満もいつしか消え、その苦しさをも楽しむ心の余裕も出てきたらしい。

出発。消え入りそうな踏み後？を、所々についてる赤テープを頼りに探し当て、相変わらず藪こぎに終始する。雪は段々と本格的になってきた。足元も真っ白だ。カッパを着込み、アイゼンをつける。尾根どうしに大きな岩が立ちはだかり、下部を巻くがこれが何ともイヤラしい。木の根を掴み這い上がる。急斜面に横たわる太い倒木を下から跨ぐ難しさ。空身なら位置が高くてもヒョイと身体をあげて跨げるのにザックが重いとままならない。一つピークを越し、又一つ・・・と高度を稼いでいくうちに尾根の様相も複雑怪奇に変わっていった。

途中で CL の腕の太さくらいもある大きなつらら（山形弁でボンダラゲ）を見つけた。今日は雪があると信じて水は背負ってこない。下では何も雪の気配がなく、水の心配をしいしい登ってきたが、段々と足元も雪が深くなり、どうやら雪を溶かして水を作ることはできそうだ。ボンダラゲを見ながら水に会話が発展し、永井さん（ツララをボンダラゲと教えてくれた会の仲間）にまで話が飛ぶ。今日はどうしている事やら。

長いアップダウンの行程に、足が重くなってきた。急登をやっとつめてピークに立ったと思ったら、又その先に尖った山が立ちはだかる。いつの間にか笹藪から今度は木の枝の絡み合った尾根道を、くぐったり跨いだり何か障害物登山をしているようだ。やっと2150m峰に着いた頃には14:00をまわっていた。。CL の読みのとおりだ。ここからコルまで一気に下る。尾根が二つに分かれ、左手を下っていったが間違いとわかり、登り返し右手の尾根に入った。右側の枝の隙間から、黒戸尾根の五合小屋のコルが同じ高さくらいに見えた。こんなに登ってきたのに、黒戸尾根にしたらまだ五合目位なんだ～。

2054mのコルにテントを張る予定だったが、時折強く吹く風を避けるため、少し手前の疎林の、それでもゆるい斜面を雪を掻き分けて平らにならし、そこで幕営とする。CL がテントを張り、私は水用の雪集めをする。まだ15時なのにもう薄暗い。寒い。濡れて冷たい。テントに入り、先ず熱燗で身体を温め、ほっと一息つくとやっと「もう歩かなくて済むんだ～」と嬉しい実感がわいてきた。赤くチロチロ燃えるガスコンロの火で衣服や手袋を乾かし明日に備える。今夜の食事はクリームシチュウだ。冷えた身体にホッとでうまい。もちは醤油をつけて海苔でまく。CL は今夜もよく食べた。

夏用のフライ無しのテントは、外が透けて見えるほど生地が薄い。今夜は寒くて眠れるかなぁ・・・・。

降雪の藪を行く

テンカラ（天然唐松）
を行く

加藤の
ボンダラゲ
（山形弁でツララ）

通算山行NO	No.	報告者	後藤　隆徳
年　月　日	第3日目＝12月30日（曇り後小雪）	二万五千図＝甲斐駒ガ岳・上条長坂	
山　　名	報告のコース＝2510m峰～最低コル～黒戸尾根八合目～甲斐駒ガ岳～黒戸尾根～七丈小屋（泊）		
体力度＝6・非常に厳しい　技術度＝5・難しい　藪漕度＝6・非常に厳しい　危険度＝ 4 4・やや危険　自然度＝6　展望度＝素晴らしい　道標＝全く無い　三角点＝甲斐駒は一等三角点			

坊主尾根核心部は藪尾根だった

コースとタイム	起床4:00－出発6:20－最低コル7:00－黒戸尾根八合目11:40－甲斐駒ガ岳13:10－黒戸尾根－八合14:00－七丈小屋15:00（泊）
標　高　差	上り：最低コル2034m～甲斐駒ガ岳2998m＝約964m 下り：C12150m～最低コル2094m＝約56m 甲斐駒ガ岳2998m～七丈小屋2350m＝約650m

三日目（30日）

昨夜は計画通り、宮ノ頭（2165m）西ピーク（2150m）で幕営した。栂の森の中だった。昨日まで暖かい日が続き、雪が少なく果たして山で「**水**」が得られるか心配で、よっぽど持参しようかと思ったくらいだ。しかし、幸か不幸か、昨日は朝から降雪をみて、山々は今までの「**うさ**」を晴らすかのように、見る見る間に、雪化粧に染まった。

テントは夏テンでフライシートも無かったが、それほど寒さは感じなかった。それでもこぼした水が短時間で氷塊になるところを見ると、まあ、氷点下にはなっているのだろう。夜は低気圧の通過で風は梢に「**ヒューヒュー**」と唸っていた。降雪より風の方が心理的に嫌だ。気持ちが落ち着かないのである。明日は最低コルからいよいよ坊主尾根核心部に突入する。果たして首尾良く目的を果たせるか？一抹の不安を抱きながらシュラフに潜った。

樹林帯の夜明けは遅く暗いのでヘッドランプの歩行は難しい。従って朝は比較的ゆっくりする。昨夜の「**すき焼き**」の残りにご飯を入れたおじや。戻しそうになりながら無理やり腹に収める。デザートにプリンを食いたかったなあ、、、。

出発する。気温はマイナス15度くらい。やや北に寄り過ぎたので、西に進路をとる。ルートは穏やかに最低コルに向かっている。ここはよく出来た尾根だ。西（左）に大武川、北（右）に篠沢の大支流が存在するが、この最低コルが切れていたら、黒戸尾根には上れない。「**自然の妙**」なのだ。明るくなり気持ちは随分楽になった。コルから猛烈な「**藪**」

が始まる。ここの尾根は概して南面に藪がひどい。やはり氷雪の影響が少なく、樹木の生育が良いのだろう。特に低木のシャクナゲが多く、ザックに引掛かるのが辛い。ザックの上を抑えられると、どうにもしょうがないのだ。新雪がモルゲンロートに染まり、山々が美しく燃える。宮の頭も眼下になり後方に雪景色の甲府盆地が望めた。左奥の早川尾根は強風で雪煙が上っていた。

尾根は益々、急になり雪も深く岩場も目立つようになる。時間は容赦なく過ぎる。そして体力は思いのほか失われていった。今日の予定は、黒戸尾根から甲斐駒を越えて、日向八丁を下り大岩山幕営である。遅くても黒戸尾根には10時に着きたい。駒まで1時間で大岩山は更に5時間はみたい。それに大岩山の岩壁はどうするか、、、。

ちょっとした岩場は安全第一でザイルをフィックスする。加藤は重荷もあり、ピッチははかどらない。弱気な発言も出る。無理もない、とにかく「**藪**」がひどいのだ。

それでもようやく鳳凰三山の全貌が視界に広がり、その向こうに富士山が認められた。眼前に八合目が確認出来た。雪の積もったハイ松に微妙なバランスで乗り、だましだましズリ上る。そして転がるように黒戸尾根に出た。結局、最低コルから標高差600mを4時間40分か掛かった。通常なら3時間程度だろう。体は疲労困憊、クタクタ・ヘロヘロ・フニャフニャ。天気もはっきりしない。これでは二人で日向八丁はとても無理であろう。あっさりと日向は諦めた。日向をやるなら屈強連中があと二人は欲しい。こんなオヤジがやる所ではないのだ。

疲れた体にムチを打ち駒目指す。加藤は「**私だけだったら、すぐ下る**」とおっしゃった。沼津のＴ氏も頂上は落とさなかったようだ。ここで頂上を極めるのと、否では山の内容が全く変わってくる。「**全力を尽くし、最後まで諦めない**」姿勢が尊いのだ。これ以上ゆっくり歩けない位の遅さで上る。よく本で読むエベレスト登頂のような牛歩であった。風が強く雪が舞う頂上に着いたのは1時間過ぎだった。

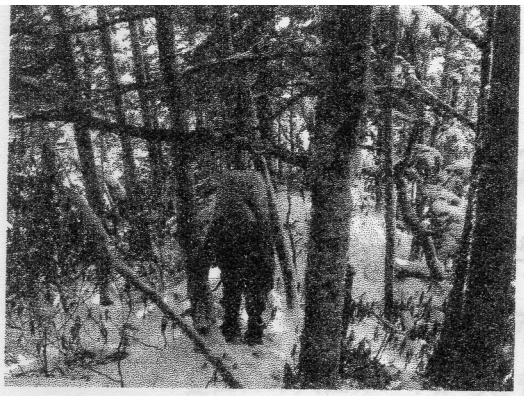
再び八合に戻り七丈小屋に向かう。暖かいストーブの小屋に入ったらテントを張るのが嫌になって今夜はここに素泊まりとなった。小屋は風も雪も無く、お湯がいつでも沸いている快適な空間だった。泊り客は他に二人と主人。美味しいビアと日本酒を頂いた。日本海に二ツ玉低気圧が発生し明日は荒れ模様。日向に突っ込まなくて良かった。

四日目（31日）

雪に降られるのもシャクだから早めに出発。芦安の清水氏に神社まで迎えに来てもらう。黒戸尾根は黒戸山しか携帯は通じない。神社まで下りると雪は大降りになってきた。芦安はお昼で20Cm ほど。清水家で大晦日の「**雪見酒**」とおいしい「**刺身**」を頂く。ただ、丁度この頃、北岳大樺沢で会報を交換している杉並労山の会員が雪崩に埋まり、行方不明になっているとは知る由もなかった。

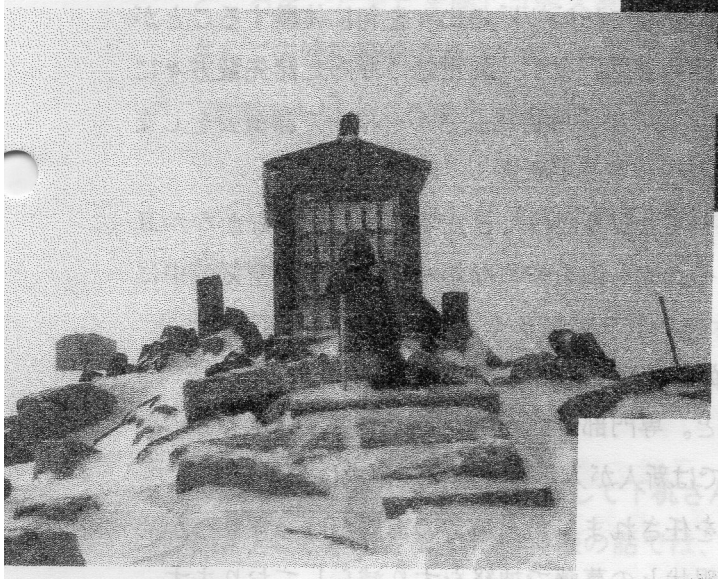
朝焼けの
早川尾根

朝の登行
バックのピーク
は
宮の頭



樹林帯

途中の岩場



甲斐駒頂上

八合目

「救助」の清水氏